上毛新聞

発行所
上毛新聞社
前橋市古市町90番地
郵便番号　371
電話前橋㉛4341（代表）
夜間編集局宿直㉛4344
振替口座　東京　36947
Ⓒ　上毛新聞社　1971

横行する〝車のオオカミ〟

県警で婦女子に警告

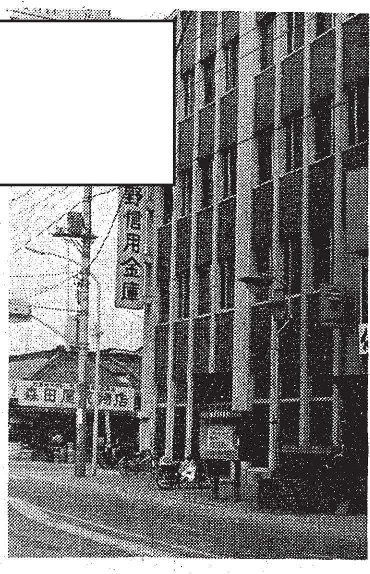
誘かい犯を逮捕

若い女性の行方知れず

車を利用して婦女子を誘かい暴行する常習犯人が逮捕された。最近目に見えて多くなっている婦女子の失跡事件も、一部はこの犯人との関連があるのではないかとみられている。警察当局は、行方不明になっている被害者について犯人の追及を続ける一方、解放的な季節の到来とともに多発が予想されるこのような犯罪について、婦女子に警鐘を鳴らしている。また県警本部では、この事件の被害者について心当たりの人があったら、どのようなヒントでもよいから連絡してほしいと呼びかけている。

[redacted]

[redacted]



【礼子さんが自転車を置き姿を消した多野信用金庫前】

九日、藤岡市内で若い女性が誘かいされ、犯人は十四日、藤岡署に営利誘かいの容疑で逮捕された。しかし女性は自宅にも帰らず、乗っていた自転車もそのまま置きざりにされているため同署は殺人、死体遺棄の疑いもあるとみて追及している。

同署の調べによると、犯人は高崎市八幡町、無職[redacted]（三七）で被害者は藤岡市藤岡（通称北の原）会社員[redacted]さん（二二）。

「モデルにする」と誘う

[redacted]さんは三月ごろ八高線で[redacted]に肩をたたかれ「人違いでした」というようなことから知り合いになり、誘かいされた九日までに三回藤岡市内で会っていた。大久保はベレーをかぶり、派手なシャツを着て画家と称し、[redacted]さんに「モデルになってほしい」としつっこく頼んでいたようだ。

[redacted]の自供によると、九日午後五時ごろ藤岡市七丁目、魚オスーパー前で[redacted]さんと会い、絵のモデルのことで相談、[redacted]さんは家に相談に行ってくるといったん自宅に戻り、午後六時ごろ多野信用金庫前で[redacted]と待ち合わせ、高崎、前橋、伊勢崎をドライブ、伊勢崎の喫茶店に一時間いて午後八時過ぎ高崎に向かい、同市日高町モデル有明荘に寄ろうとして車を徐行させたとき、[redacted]さんがドアをあけ逃げた。[redacted]は[redacted]さんを追ったが、[redacted]さんは通りがかりの車に乗り高崎市内に向かったため見失ったという。

このため、午後十時半ごろ、いったん高崎市八幡の自宅に帰り、[illegible]信用金庫の自転車置き場に寄り、自転車に着いている自分の指紋を消そうとし、午前零時過ぎ家へ帰った。

翌十日は午前九時半ごろ、また多野信用金庫にきて、自転車に着いている自分の指紋を消そうとしたが、たまたま[redacted]さんの兄[redacted]さん（二三）に見られたため引き返し午前十時半ごろ安中で女性と待ち合わせ、長野県の松本、浅間山をドライブし、さらに榛名町里見方[illegible]し、自分は午前零時ごろ一人で倉渕村権田の道路に車を止め、車中で寝てその後、警察につかまると思い十一、十二両日も野宿したといっている。

同署は[redacted]が指紋を消そうとしたり、二度も多野信用金庫を訪れていること、肝心の点は黙ってしまうことなどから、[redacted]さんを殺した疑いもあるとみて、[redacted]の立ち回り先を追及する一方、モデルや知人のアパートなどの聞き込みもやっている。

ナンバーを確認

[redacted]が浮かんだのは、[redacted]さんのいなくなった翌十日、兄の会社社長[redacted]さん（三七）が藤岡署へ捜索願いを出し、その足で[redacted]さんが自転車を置いた多野信用金庫の階段下に寄ったところ、おかしな男が[redacted]さんの自転車をいじっていたためで、この男は[redacted]さんと会話をかわすかかわさないうちに「人がきたから失礼」と車で逃げてしまった。車の番号は[redacted]でひらがなは不明だったが、県内の285十二台を調べ、そのとき[redacted]の名が出、[redacted]の顔写真とおかしな男が一致したため[redacted]の追跡となった。

[redacted]はつかまるまでに高崎、岩鼻、前橋などを立ち回り、[redacted]さんの家族も見たが、車のため追えなかった。たまたま十三日午後六時ごろ、前橋署近くで[redacted]さんの知人[redacted]さん（二三）が[redacted]の自動車を発見、前橋署へ連絡するとともに追跡、署員と協力してつかまえ、同夜七時半ご[illegible]時すぎ、営利誘かいの疑いで逮捕した。

[redacted]さんの特徴、失跡当時の服装　身長一六〇センチ、長髪（肩下五センチ）、丸顔、右上八重歯。レンガ色ブラウス（ジャージー）、Gパン、グレー紺のコンビぐつ。

[redacted]さんが勤めていた会社上司の話　三年前、当社にはいったがまじめで明るい性格、高校時代からスポーツ好きらしく元気な娘さんです。非常にしっかりしたところがあり、男に連れ去られたと聞いてびっくりしています。

〝私設捜査班〟で追う

[redacted]を逮捕するきっかけになったのは、[redacted]さんの兄[redacted]さん（三七）を中心に約四十人で捜索に乗り出した〝私設捜査班〟。[redacted]さんらは、多野信用金庫前で取り逃がした[redacted]が一三〇〇ccのロータリークーペを乗り回していたので、この車にスピードで対抗できる車数台を用意、[redacted]が前橋方面に向かったというので前橋市内を中心に、高崎、安中などでグループ捜索を続けていた。

警察が[redacted]を営利誘かいで逮捕、殺人の疑いを濃くしているのは①[redacted]さんが連れ去られた翌日[illegible]れていた[redacted]さんの自転車に軍手をはめてさわるなど、不審な行動をしている。自供では「オレは、[redacted]さんが言うことを聞かないので車内でなぐった。この暴力行為がバレれば刑務所から出てきたばかりなのにまた逆戻りしなければならない。証拠を消すため自転車についた指紋をふき取りにきた」と話しているが[redacted]が[redacted]さんを誘かいした時点では[redacted]の名前はぜんぜん浮かび上がっておらず指紋をまっ消しにきた行為はふつう故意、過失いずれにしろ凶悪犯罪をおかした者がやる行動②さらに[redacted]は、[redacted]さんを高崎市内のモデル庭まではいってここに連れ込もうとしたと自供しているが、いまのところこの形跡はなく、しかも出所後、〝エジキ〟にした女性のことはスラスラと話すが、[redacted]さんのことに触れるとまったく口をつぐんでしまう—など自供に不審な点が多いことによる。

また県警では、先月二十七日、前橋市内から姿を消したまま行くえ不明になっている女高生の失跡事件（本紙既報）も[redacted]のこれまでの行動から関連があるものとみて追及している。

（関連記事七面）

新茶　売り初めました。
前橋　水本園
電話（31）二〇〇六番

会長には加藤さん

渋川市区長連合会役員

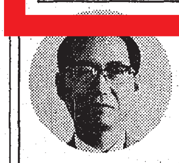
渋川市区長連合会は十四日、市役所で開き、四十六、七年度の役員を次の通り決めた。

▽会長　加藤秋男（十四区）▽副会長　大谷光雄（七）若井雅田昌信（三十三）飯塚武雄（[illegible]一）▽幹事　柴田芳次郎（三[illegible]）崎共八（十三）福島常市（[illegible]八）西沢啓次（三十一）石坂[illegible]（三十八）▽会計　大谷光雄[illegible]▽監査　伊草啓義（三十九）[illegible]松太郎（三十四）

諸田氏頭取昇格へ

近く群銀首脳陣交代

諸田氏



小関氏

茂木氏

御代田氏

高橋氏

群馬銀行は二十九日開く取締役会で会長羽鳥久雄氏（七一）頭取玉尾[illegible]氏（七二）専務関根政巳氏（六五）が退任、新頭取の八代目に現副頭取の諸田幸一氏（六八）が就任、トップが大幅に入れ替わる。

諸田氏は現在群馬テレビ社長を兼務しているが、頭取昇格でテレビを退き、群馬テレビ社長には関根政巳氏がつく予定で、三十一日開く群馬テレビの役員会で決定する。また、退任する三氏はそのまま十一月十日に開く株主総会まで取締役（非常勤）としてとどまる。退任する玉尾氏はこの人事について「群銀の若返りのため」といっている。同氏は昭和七年十一月入行し、二十一年四月取締役、三十四年専務取締役、四十三年四月頭取となり三年間、頭取として在任。

新役員は次の通り。

▽頭取（副頭取）諸田幸一（六八）▽副頭取（専務）茂木憲二（六四）▽専務取締役（常務取締役）小関博（六一）同（同）御代田市郎（五七）▽常務取締役（取締役）高橋暁二（五七）

▽諸田氏略歴　昭和四年四月上毛銀行入行十六年現群銀に入行し渋川支店長、本店営業部長などをへて二十八年十月取締役となる。三十四年常務取締役、四十四年専務取締役、四十五年一月取締役副頭取となる。この年二月に群馬テレビの初代社長。

管理職の資質向上を

渋川市教委方針決める

渋川市教委は、昨年三月県教委から最終報告のあった細谷俊夫東大教授の「学力向上対策診断」に基づき、市としては報告をどう生かしていったらいいか検討していたが、次の三点を主要な柱として今年度実施することになり、その第一回打ち合わせ会を十三日、市役所で開いた。

この三本柱はまず管理職の資質と経営能力の向上を図る。このため校長と教頭は広く学校経営に目を向け、自校の実態や実情をつかむようにする。具体的には県外宿泊教育事情視察研修会として七月初旬、新潟県長岡市内の小中校を視察し、他県の実情を知る予定。また、自分のまわりから課題を見つけて研究協議を開き、各校長は提案資料を作成し、各研究者に配布する義務が課せられている。十三万円の予算で校長は県外視察を含めて年間七回、教頭は六回の研修会を開く。二番目は小中学校教諭の研修機会をふやす。現在、渋川市には九校、二百四十人の先生がいるが、このうちの三〇％、七十二人の先生に四年計画で県外視察など七課題を勉強させる。今年度は第一年次として十八人を対象とする。

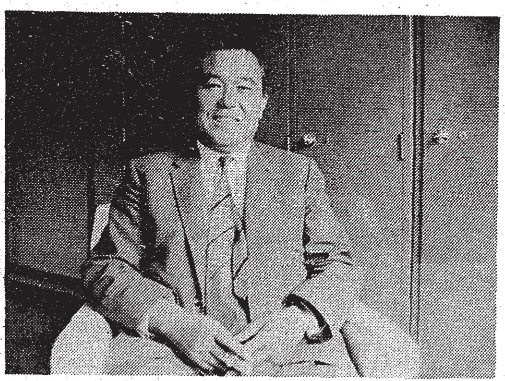
第三は学校経営現代化事業。今年度は九校に十万円ずつ九十万円を予算化した。この使い道は、各校の校長にまかせ、先生の基礎研究のために参考文献の購入や研究会への参加、また先進学校の視察などに当てられる。

毎月1日は全国お茶の日
毎月1日・15日
一割引
新茶
茶
高橋園
前橋　TEL㉛4774

出番を待つ

参院選

＜4＞



【「死んでも勝つ」と闘志をみせる茜ヶ久保氏】

〝選挙知名度〟は最高

七転八起の執念持つ

茜ヶ久保重光氏

選挙イコールアカネといってもいいほど、この人はよく選挙に出ている。今度立候補が予定されている五人のうち、知名度という点ではおそらくこの人の右に出るものはいまい。

茜ヶ久保重光というのが本名だが、この人を呼ぶのに「茜ヶ久保さん」などとフルネームをいう人はだれもいない。「アカネさん」の愛称で通り、事実アカネ重光が本名と思っている人さえずいぶんいる。

選挙には響きやすい名前ということが案外影響する。そういう点からいえば茜ヶ久保は損である。

アカネさんははじめて選挙に出た二十二年の衆院選の際に、だれにでもわかりやすいカタカナ書きの異色のポスターをつくった。それ以来ずっと「アカネ重光」で通している。

アカネさんは青島で有名な宮崎県生まれの九州男児である。昭和十二年に水上町にあった阿能川鉱山の所長として本県人の仲間入りをした。学生時代から労働運動に関心を持っていたので、経営者側にいながらも労働者の福利厚生面には率先して力を入れ、労働者に慕われた。

アカネさんは若い時からリーダーになる素質を持っていた。利根郡下阿能川鉱山所長時代、利根郡下にあった二十数社の鉱山を一つの組織にまとめ、自ら奥利根鉱山協会の会長になり、昭和十五年には県鉱業会を設立し、その理事長にもなった。アカネさんの統率力、指導力が買われて、全然関係のない県農商工業協同組合の理事長にもさせられた。

このような要職にありながらも、学生時代に反戦平和運動を中心に労働農民運動に活躍してきたアカネさんは「日本の平和を守り、働く者のしあわせを築く」という信念に燃え、社会党結成に参画した。

働く者の意見を政治に反映させたい、ということから二十二年に衆院選に初出馬したが、惜しくも次点で落選した。その後二十五年の参院選、二十七年の衆院選、二十八年の衆院選とたて続けに立候補したがいずれも落選、そしてついに三十年の衆院選で念願の初当選を飾った。その後三十二年、三十八年にも衆院選に当選しているが、二十二年の初当選以来衆、参院選に出馬したのは、なんと十一回。

失敗しても、失敗しても自分の信念のためには七転（ころ）び八起きの精神でぶつかる。強情とまでいえるほどの執念の持ち主である。こんなところに党派をこえたアカネさんのファン〝アカネ党〟が全県下にいるのだ。

前回の参院選では二十四万票をとりながら敗れた。このときは選挙には敗れはしたものの、「アカネ依然健在なり」の印象を県民に強く与えた。

アカネさんは今度の選挙にすべてをかけている。「これに落ちたら、おれの政治生命は終わりだ」と悲壮な覚悟で打倒自民をめざして精力的に選挙運動を続けている。

妙義基地闘争、ジラード事件で名を売った当時にくらべて、肉体的な若さこそなくなったが、精神面での若さは少しもうせていない。

「自民党に参院の四議席を与えてはならない。もしそんなことになれば日本は危険な方向につっ走るのだ」とトレードの早口でまくしたてるところなどいかにもこの人らしい。

統一地方選でも強くあらわれたが、最近の社会党の退潮はいちじるしいものがある。ところがアカネさんは統一地方選の結果がそのまま参院選にあらわれるとはみていない。

「最近の自民党のやり方には保守の人でも飽き飽きしている人が多い。この間、妙義町へ行ったとき、農家の主婦に〝社会党はどうした。しっかりしてくれ〟と激励された」と自信を持っている。

自ら庶民派を名乗るアカネさんは「政治は理屈じゃあない。人を愛することが政治の根本なんだ」と自分に言い聞かせ、町から村へと対話を続けている。

茜ヶ久保重光氏　六十四歳　早大政経科卒、党県連書記長、党県連副委員長、党県本部国民運動委員長、沼田ダム対策特別副委員長、衆院議員三期、内閣委員、議院運営委員、党県本部ダム反対闘争委員長　現住所前橋市岩神町三丁目

県庁隣組をPR

白石議長　太っ腹を見せる

熊川県議

熊川県議

白石議長

記者席

○…十三日から五月定例県議会が開会したが、初めて議場に臨んだ一年生議員たちは緊張した表情の中にもやる気十分の態度がうかがえる。

県庁と目と鼻の先に事務所を持っている熊川次男氏は「私は県庁とは隣組なので、勉強には非常に都合がいいよ。一、二年のうちに県政を熟知し、バリバリやりますから見ていてください」とあちこちで県庁隣組をPRしていた。

○…富岡市の白石孝一郎議長は市一周駅伝の優勝旗を富岡市に寄贈した。十年間も行なわれている伝統の駅伝だが予算の関係で優勝旗がなかった。それだけに関係者は大喜び。最初、駅伝事務局である市教委を通じて購入させたのが、三万円の普通の優勝旗。白石議長は「三万円のものでは気にいらない。十二万円の最上のものにしよう。三万円のは準優勝用に回す」と腹の太いところをみせた。

吾妻町は青木氏

吾妻郡町村議会議長

吾妻郡下の町村議会はこのほど開き、それぞれ正・副議長を選んだ。

【吾妻町】▽議長　青木祐三郎（五七）▽副議長　春原功一（四七）

【長野原町】▽議長　浅井一（四七）▽副議長　小林徳重（六九）

【草津町】▽議長　萩原亮（四七）▽副議長　角田康次（六六）

【高山村】▽議長　角田正男（四七）▽副議長　平形亀三郎（四〇）

【六合村】▽議長　山田松雄（五[illegible]）

初夏の新作
モード大会
春もの大処分
フレッシュ・チャーム・ハイセンス
Ⓚ赤かんばん
前橋店　中央通　TEL㉛7200

三山春秋

無敵の横綱双葉山が六十九連勝して、七十連勝目に無名に等しかった安芸の海の外掛けに敗れて、土俵は新しい英雄を生んだが、双葉を引退に追い込んだのは、破竹の勢いで上がってきた東富士の怒涛（とう）の寄り身だった▼連勝記録以外、相撲史のあらゆる記録を書きかえた偉大な横綱大鵬にも、新鋭の大受、貴ノ花に敗れたときそのカゲがさした。それでも持ち前の不くつの精神力で先々場所は充実し切った玉の海をどたん場で破って、逆転優勝し、先場所も全勝の玉の海に土をつけた執念の土俵は相撲ファンの記憶に新しい▼その大鵬が貴ノ花に敗れてついに引退した。考えてみれば、どのスポーツでもそうだし、一般の社会にも通用することだと思うが、その世界で現役第一線の最高位を十年も持続するということは容易ではない。大鵬はその名にふさわしく大空をはばたく素質に恵まれたことも事実だが、彼自身が土俵入りで締めた化粧回しのように心技体を最高の状態で保つように努力したことも事実間違いない▼それでも〝時の流れ〟はいかんともしがたかった。十四日の上毛新聞には春日野部屋と大鵬部屋に入門した二人の怪童の話がのっている。胸ふくらませ、第二の大鵬を夢みて精進していることと思う。素質的にも相当のものを持っているようだが、精神力が不足しているのか、ねばりを欠く性格が災いしているのか、本県からは明治の梅・常陸時代の名関脇といわれた高崎市豊岡出身の稲川政右衛門以来名力士の名を聞かない▼二人にとって、貴ノ花、大受の域に達するまでの道には起伏も多く、けわしい難関を乗り越えて進まなければならないが、久しぶりに県出身力士の活躍がみられるか楽しみである。大横綱去って、土俵は緑の風のようなさわやかな若者の時代へと移って行く。

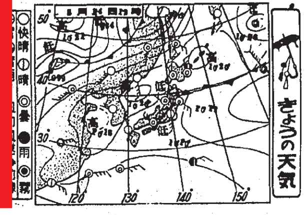
本社来訪　（14日）

[illegible]副議長　富沢恩秋（[illegible]）

新任あいさつ　県議会議長　[illegible]茂平氏、同副議長　都丸英内[illegible]

あいさつ　前橋青年会議所理事長　[illegible]横田秀哉氏、同副理事長　[illegible]熙氏

きょうの天気



きょう　北の風晴れ。
あす　北日中南東の風晴れ。

5月15日
月齢　20.0
日出　4.37
日入　18.42
月出　23.20
月入　8.09
満潮　6.44　21.23
干潮　1.29　13.56

きょうは全般に高気圧におおわれて、晴天のところが多くなるが、午後になってにわか雨の降るところがあるかもしれない。

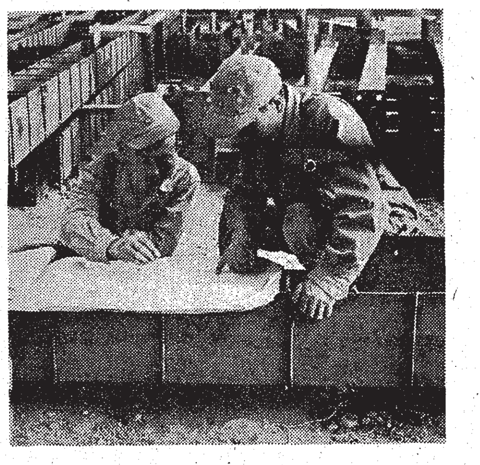
きのうの前橋の最高気温二三・六度、最低気温一四・八度（前橋地方気象台）

鉄◎と◎建◎設◎

現代の息吹は鉄からはじまります。多彩な現代生活も鉄なくしては語れません。鉄は強靭です。そして鉄は優雅です。天を摩す強靭な高層建築も鉄ならば、私達を取巻く優雅な生活用品のかずかずもすべて鉄です。鉄製品は「強くて軽いもの、表面がなめらかでつやがあり、いつまでも美しく変らないもの」として私たちの生活とますます結びついて生活を楽しく豊かなものにしています。

大鉄は鉄と共に歩み、業界のトップメーカー川崎製鉄の県下特約代理店として、資材はもとより川鉄の技術陣とも提携し、強力な体制による異色ある活動に従事しています。大鉄が誇る資材、設計、建設の一貫した完全工法は、今や斯界の新風として各方面の注目を集めています。

主な営業品目
リバーアーチ
川鉄のHフレーム構造建築
川鉄テーパースチール
川鉄のH形鋼は、在来のI形鋼に比べ軽量で経済的、任意の組合せ断面が簡単で、施工が容易耐力が大きいなど構造物の軽量化大形化の要望にこたえる、理想的な形鋼です。

川鉄・川鉄建材・建築技術提携工場
川鉄商事株式会社群馬県特約代理店
株式会社大鐵
本社商事部　群馬県高崎市江木町413　TEL（0273）22—5579（代）
鉄工建設部　群馬県高崎市剣崎町88-5　TEL　23-0152・23-0710